

「教育」としての健康診断と特別活動

井 美希¹⁾・井 陽介²⁾

1) 帝京短期大学 生活科学科 2) 東都大学

【抄録】

【目的】 今日、子供たちの健康課題は、生活習慣の乱れやメンタルヘルスの問題等、多様化・複雑化している。このような健康課題に対処していくためには、特に学齢期から自身の健康課題を把握し、子供たち自身で自分の健康を保持増進していく資質・能力を育成していくことが、今の学校現場には強く求められている。そこで本研究では、健康診断の教育的側面に焦点を当て、健康診断を基にした特別活動における教育実践がどのように展開されているのかを、文献調査を通して明らかにしていくことを目的とした。

【方法】 論文等検索データベース・サービス「CiNii Research」において、「養護教諭・健康診断・特別活動」、「健康診断・特別活動」及び「養護教諭・特別活動」をキーワードに検索を行い、抽出した論文の内容から、特別活動における健康診断の教育実践が、いかに行われてきているのかを分析した。

【結果】 「健康診断・特別活動」で検索を行った結果、1件の論文が該当した。次に、「養護教諭・特別活動」の検索では9件の論文が該当した。これらの論文では、保健指導等の課題に対して、特別活動の時間においてどのように実践していくのかといったことが主に論じられており、養護教諭の教育実践を検討していく上で、重要な示唆を与える内容となっていた。ただし、本研究が目的とする特別活動における健康診断の教育実践に言及した論文は少なかった。

【考察】 教育としての健康診断が特別活動の教育実践として結び付いていかない背景には、養護教諭の意識と学校全体の健康診断に対する意識の在り方が影響していると考えられた。教育としての健康診断を定着させていくためには、まずは、健康診断の中心的役割を担っている養護教諭が、健康診断は管理の面から実施するに留まらず、子供たちに健康の意義を理解させながら、子供たちが自身の健康に向き合い、積極的に保持増進させていくための教育の側面があることを、一層意識することが大切だと考えられた。その上で、健康診断における教育の視点を特別活動における教育実践として実行する意識を持つ必要があると考えられた。また、学校全体で健康診断には「管理と教育」の双方が必要であることを意識し、教育としての健康診断を学校の全体年間計画の中に組み込み、計画的・系統的な教育実践を確立していくことが重要であると考えられた。

【キーワード】 健康診断, 特別活動, 養護教諭

I. はじめに

文部科学省(2025)によれば、子供たちの健康課題は、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、アレルギー疾患、メンタルヘルスの問題等、多様化・複雑化していることが報告されている¹⁾。また、成人の健康課題においては、生活習慣病(食習慣・運動習慣・休養・喫煙・飲酒等の生活習慣がその発症・進行に関与する疾患群)が日本人

の死因の半数以上を占めていることが報告されている²⁾。近年では生活習慣病の低年齢化も叫ばれており、今後も増加していくことが予想されている。

このような多様化・複雑化した健康課題に対処していくためには、予防教育の必要性が従来から指摘されてきた。この指摘に鑑みるならば、学齢期から自身の健康課題を把握し、そして子供たち自身で自分の健康を保持増進していく資

質・能力を育成していくことが、これからの学校現場には一層強く求められていると言ってよいだろう。重要なことは、「管理と教育」が両輪となって、子供たちの健康の保持増進を推進していけるような体制を学校全体で築いていくことであり、そのような体制が構築されているのかを省察的に検証していくことである。

このような観点に鑑みて、子供たちの健康の「管理と教育」が学校現場でどのように実施されているのかを改めて考えてみたい。

まず管理の面では、健康診断が挙げられる。健康診断は学校教育法第12条において「学校においては、別に法律で定めるところにより、幼児、児童、生徒及び学生並びに職員の健康の保持増進を図るため、健康診断を行い、その他その保健に必要な措置を講じなければならない。」と規定されている。また、学校保健安全法第13条では「学校においては、毎学年定期に、児童生徒等（通信による教育を受ける学生を除く。）の健康診断を行わなければならない。」と規定されている。これらの法的根拠から、日本の学校では、学齢期の子供に対して毎年健康診断を実施しなければならないことが確認できる。宍戸³⁾によれば、学齢期の子供の健康診断を学校で行うという日本の制度は、国際的にみてもかなりユニークな制度であり、就学率の高い日本において、すべての子供が無償で健康診断を受けられることと、「管理と教育」を統合してできるという点において大きな意義があることを指摘している。確かに、養護教諭が担う職務の中でも、保健管理の中核となる健康診断は、全校児童生徒を対象に毎年必ず実施されており、子供たち自身の体や健康について知る重要な機会となっている。

一方で、健康診断の教育実践はどのように展開されているだろうか。日本学校保健会（2015）「児童生徒等の健康診断マニュアル（平成27年度改訂）」⁴⁾では、以下のように提示されている。

学校保健安全法では、学校における児童生徒等の健康の保持増進を図るため、学校における保健管理について定めており、学校における健康診断は、この中核に位置する。また、学習指導要領解説特別活動編において健康安全・体育的行事として例示されており、教育活動として実施されるという一

面も持っている。このことから学校における健康診断は、家庭における健康観察を踏まえて、学校生活を送るに当たり支障があるかどうかについて疾病をスクリーニングし、健康状態を把握するという役割と、学校における健康課題を明らかにして健康教育に役立てるといふ、大きく二つの役割がある。

このことから、健康診断は、学習指導要領解説特別活動編において、「健康安全・体育的行事」として例示されており、教育活動として実施されるという一面も持っていることがわかる。

では、健康診断の教育的側面は特別活動の「健康安全・体育的行事」にどのように規定されているのであろうか。本研究が対象としているのは義務教育段階の健康診断における教育実践であるため、紙幅の都合上、ここでは『中学校学習指導要領解説特別活動編』⁵⁾を以下に示す。

(3) 健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵（かん）養、体力の向上などに資するようにすること。
(p.94)

このように、「健康安全・体育的行事」には、健康診断だけでなく、避難訓練や防災訓練、運動会（体育祭）や球技大会など多様な活動が含まれているため、それらの活動を総合的に捉えたねらいが明記されている。

より具体的な健康診断のねらいとしては、『中学校学習指導要領解説特別活動編』の実施上の留意点⁵⁾から、以下に示す。

健康安全に関する行事において、例えば、健康診断を実施する場合には、健康診断や健康な生活のもつ意義、人間の生命の尊さ、異性の尊重、健康と環境との関連などについて、学級活動、生徒会活動及び各教科、道徳などの内容との密接な関連を図り、健康・安全に関する指導の一環としてその充実を期すること。

その際、参加の心構えなどについて理解さ

せ、関心をもたせるようにするとともに、事後においては、例えば、体に疾病などが発見された生徒の措置、事故や災害から自他の安全を守ることの意義などの指導について十分配慮すること。(pp. 99-100)

このように、学校では健康診断を単に管理の面から実施するだけに留まらず、子供たちに健康な生活のもつ意義を理解させながら、子供たちの健康を保持増進するための教育が実施されることが期待されている。これらのことは、一般的に多くの養護教諭は大学等養成機関において学んできていることが考えられる。そして、健康診断結果をその後の保健指導等に活用し、個別にも全体にも還元している養護教諭は多いことも推察される。

しかしながら、宍戸³⁾は、健康診断は「管理」の面に重きが置かれ、十分な健康教育につながっていないことを指摘している。確かに、これまで示してきたことを要約的に述べると、管理の面としての健康診断は、法的根拠が明確であり、全児童生徒を対象に学校が健康診断を実施する仕組みがしっかりと整理され確立されている。一方で、教育の面としての健康診断は、特別活動における学校行事の「健康安全・体育的行事」に含まれていることは確認できるが、実際にどのように実践すべきかが具体的に明記されていない。そのため、ややもすれば、宍戸が指摘するように、健康診断は健康診断を行うことが主たる目的とされた一過性の行事として認識され、それを基にした教育にまで至っていないのではないかといった懸念も生じる。実際に第一著者は、現場で養護教諭をしていた時には、健康診断をいかに円滑に滞りなく実施するかが意識の大部分を占めており、健康診断の教育的側面を特別活動に繋げた教育実践として実施する意識を持っていたとは言えない状況であった。また第二著者は、中学校での学級担任の経験を有するが、健康診断に関する教育実践を行う意識は希薄であった。

特別活動における教育では、学級活動等を通して、子供たちが健康課題を自身の問題として主体的に捉え、その課題を解決するためにはどのような改善が必要かを多様な他者と考えることで、その課題を多面的・多角的に考えることにつながることを期待される。そして、多様な

他者との話し合いを活かして、最終的には各自で自分なりの改善策を意思決定し、日常生活に自主的・実践的に活かしていくということに特色がある。

また、特別活動は、他の教科・教科外の領域に比べて、学習指導要領の実際の運用には比較的弾力性がある。このことは、各学校の特色を活かした教育実践が多様に展開されていることを意味している。そのため、子供たちの健康の保持増進を期するために、特別活動において、健康診断に基づいた教育実践がどのように展開されているかを検証していくことは、今後益々重要となってくるであろう。

このような問題意識から、本研究では、教育としての健康診断に焦点を当て、特別活動における健康診断の教育実践がどのように展開されているのかを、文献調査を通して明らかにしていくことを目的とする。

II. 方法

論文等検索データベース・サービス「CiNii Research」(以下 CiNii)において、「養護教諭・健康診断・特別活動」、「健康診断・特別活動」及び「養護教諭・特別活動」をキーワードに検索を行い、抽出した論文の内容から、特別活動における健康診断の教育実践がいかに研究・実践されてきているのかを分析した。

III. 結果

まず最初に、「養護教諭・健康診断・特別活動」で検索を行った結果、これらのキーワードを含む論文の該当はなかった。

次に、「健康診断・特別活動」で検索を行った結果、3件の論文が該当したが、内2件は学生による「養護実習報告」であったため、分析対象から除外した。その結果、帖佐(2012)「児童虐待予防と特別活動ーとりわけ学校健康診断に着目してー」⁶⁾の1件が該当した。この論文では、学校における授業外での虐待の一次予防策として、特別活動の特に学校健康診断の観点から検討されていた。

この中で帖佐は、健康診断は特別活動の「学校行事」における「健康安全・体育的行事」に位置づけられることを述べた上で、「学校健康診

断は、通常その企画運営は養護教諭が、実際の診断は学校医や学校歯科医等が実施するもので、その実施の根拠法令も学校教育法等ではなく学校保健安全法である。そのためこれは一般教員には（自らの主体的な教育活動として実施するものではないという意味で）、やや縁遠いものとなっており、またそのせいか、これまでの我が国の特別活動研究において、この学校健康診断が主題的に論じられることは管見の限り皆無であった。」⁶⁾と述べていた。

次に、「養護教諭・特別活動」の検索では9件（11件の論文が抽出できたが、内2件は研修会の実施報告及び創作されたタバコに関する話し合いの事例であったため除外した）の論文が該当した。この内訳として、保健学習に関すること、周辺領域科目との連携に関すること、食の指導に関すること、性教育に関すること、特別活動の原理に関すること、養護教諭との連携に関すること、保健指導に関することが述べられていた。

保健学習に関する論文では、保健領域の授業（保健学習）と特別活動及び学校保健委員会（保健指導）を関連付けた養護教諭による教育実践効果の検証について述べられていた⁷⁾。

次に、周辺領域科目との連携に関することでは、平成29年度学習指導要領改訂を受けて、養護教諭養成にその趣旨をいかに組み込み、総合的な学習の時間や道徳教育との連携を図りながら実施していくべきかについて述べられていた⁸⁾。

食の指導に関することでは、栄養教諭や養護教諭の担う教育とは何かについて述べられているもの⁹⁾や、栄養教諭や養護教諭が食に関する指導の困難さや難しさという契機をきっかけに教育学的思考を醸成させていること¹⁰⁾について述べられていた。

性教育に関することでは、今まで受けてきた性教育についての捉え方¹¹⁾や、性教育の実態¹²⁾について述べられていた。

特別活動の原理に関することでは、学校教育を支える基本活動の視点から、特別活動の重要性について論じられていた¹³⁾。

養護教諭との連携に関することでは、学級活動における養護教諭との連携について、担任の視点から紹介されていた¹⁴⁾。

これらの論文では、それぞれの課題に対して、特別活動の時間においてどのように実践してい

くのかといったことが主に論じられており、養護教諭の教育実践を検討していく上で、重要な示唆を与える内容となっていた。ただし、本研究が目的とする健康診断の教育実践に関する直接的な言及は見られなかった。

その中でも、中学校の保健指導の実践例について紹介している、福西・山成（1991）『特別活動』における保健指導の現状と問題点¹⁵⁾では、具体的な実践に富んだ保健室（養護教諭）や保健活動と特別活動との繋がりから、まさに管理から教育への模索が論考されていた。その中で、勤務校の特徴を保健活動に活かし、計画的且つ多様な保健活動を実践されており、この中に健康診断の教育実践に関することも位置付けられていることが読み取れた。

さらに、「生徒一人ひとりが自分の健康の大切さをしっかりと自覚し、よりよい健康生活を積極的に実践できる」ことを目標に、保健指導にも他教科と同じレベルに近づくよう、「自ら心身の健康に気づき、管理できる生徒の育成」というテーマを、自校の教育研究テーマに鑑みた上で設定していた¹⁵⁾。これはつまり、特別活動における保健指導実践（健康診断に基づくものを含む）が、計画的に行われていることが示唆されていると言えるだろう。

このように、「特別活動」と「健康診断」及び「養護教諭」をキーワードに検索した結果、特別活動における健康診断の教育実践について触れられている論文は少ないことがわかった。

IV. 考察

今回の調査からは、健康診断の教育的側面に焦点を当て、特別活動の授業として実践している研究は非常に少ないことが明らかとなった。本研究を進める中で、その背景には2つの要因が考えられた。

1つ目は、養護教諭の意識である。まずは、健康診断の中心的役割を担っている養護教諭が、健康診断は管理の面から実施するに留まらず、子供たちに健康の意義を理解させながら、子供たちが自身の健康に向き合い、積極的に保持増進させていくための教育的側面があることを、一層意識することが大切であろう。その上で、健康診断における教育の視点を特別活動における教育実践として実行する意識を持つ必要があ

ると考えられる。多くの養護教諭は健康診断に教育的視点を十分に持っているものと推察されるものの、健康診断における教育の視点をさらに計画的・系統的に捉えていく必要があるのかもしれない。教育職である養護教諭が教育の視点をもって健康診断に向き合うことは、非常に意義がある。そして、健康診断が特別活動の中に位置づけられるということは、健康診断を教育実践の機会とできる基盤があるということである。これを活用せず、管理の側面だけに囚われ、健康診断を実施することだけに終止してしまうのは非常に勿体ないことである。特別活動に位置付けられることを有効に活用し、教育としての健康診断に焦点を当て、特別活動における健康診断の教育実践を展開していくことは、子供たちの継続的な健康の保持増進に有効であり、ヘルスプロモーションの視点からも大切であろう。

2つ目は、学校全体の健康診断に対する意識である。1点目の課題として、養護教諭の意識について言及してきたが、養護教諭の意識だけでは、特別活動における健康診断の教育実践を十分に行うことは不可能であろう。帖佐⁶⁾の論文にもあるように、学校全体の健康診断に対する意識の在り方も、少なからず影響を与えていると考えられる。誰にでも大切な「健康」について、「管理と教育」の双方の視点から全児童生徒を対象に行われる健康診断こそ、学校全体で取り組む意識が重要である。

例えば、同じ特別活動の「健康安全・体育的行事」に位置づけられる運動会（体育祭）と比較してみても、その差は歴然であろう。運動会（体育祭）は全校的な取り組みであり、事前の計画から準備や当日の運営まで、全教職員協力のもと実施されている。また運動会（体育祭）の指導には、保健体育の授業時間以外でも、特別活動の学級活動において目標設定や事後の振り返り等、様々な場面で指導の時間が取られ、教育活動として十分な時間的・人力的配慮が施されている。

これに対して健康診断は、同じ位置付けにありながら、準備も実施も事後措置も、養護教諭が全面的に担い、一般教諭は補助的な感覚が否めない。つまり、そもそも教員全体に「健康診断には教育の側面もあり、特別活動に位置付けられる」という認識が希薄であるということが

考えられる。このことが、健康診断が特別活動として推進されていない要因、即ち健康診断が管理の面からのみ認識され、教育の視点でとらえられていない要因であるとも考えられるのではないだろうか。

これを改善するためには、学校の全体年間計画の中に健康診断に関する教育の時間、つまり、健康診断を基にした特別活動における教育実践の時間を予め確保し、計画的に取り組める仕組みを構築していくことが必要であろう。健康診断の教育実践を特別活動の枠としてしっかりと確保し組み込むことで、教育としての健康診断に関する活動を実施しやすくなる。そうすることで、「管理と教育」の双方から見た健康診断の見通しが立ちやすくなると共に、一般教諭からも健康診断のもつ「管理と教育」双方の役割が捉えやすくなるのではないだろうか。

このように、学校として管理はもちろんのこと、教育としての健康診断における教育実践を特別活動の枠としてしっかりと組み入れる意識とシステムづくりは、健康診断を計画的・系統的な教育活動として実践する基盤になると考える。

「健康診断は養護教諭が一人で孤軍奮闘するのではなく、周りに巧みに働きかけていきながら、子供の発育・発達を保障していく学校教育活動全体の活動にしていくことが大切」と宍戸³⁾が述べているように、養護教諭が起点になりながらも、学校全体に教育としての健康診断の視点を浸透させ、学校全体で計画的・系統的に実施していく意識を醸成するよう働きかけることが肝要であると考えられる。

CiNiiで「健康診断」と検索すると、7,591件もの該当があった。これほど多くの研究が蓄積されてきているにもかかわらず、教育としての健康診断に焦点をあて、特別活動の教育実践として述べられているものが少ない現状は、教育としての健康診断の視点と特別活動とを繋ぎきれていないこと示唆している可能性も考えられる。

健康診断は学校における保健管理の中核である。だからこそ、そこで得られた子供たちの現代的な健康課題に対応する上で、教育としての健康診断に焦点を当て、特別活動における健康診断の教育実践を模索していくことは、子供達の心身の健康の保持増進に欠かせない取り組み

であると考え。

V. おわりに

本研究では、子供たちの健康課題が多様化・複雑化していることに鑑みて、これからの学校では子供たちが自分自身で自分の健康を積極的に保持増進していく力を育む必要性を述べてきた。またこれを具現化するために、健康診断を管理に留めるだけでなく、教育の側面からより一層重視する必要性を述べてきた。そして、この教育の具体的な実践の場として、特別活動の教育実践から検討してきた。

その結果、特別活動における健康診断・教育実践に関する研究は少ないことが明らかとなった。同時に、健康診断における教育活動としての実践を展開するためには、健康診断の教育的側面と特別活動とをしっかりと結びつけて実践を重ねていく必要があり、今後研究を進めていく必要性が示唆された。

ただし、今回の分析の枠組みは、あくまで「特別活動」をキーワードに含めた文献調査だけに留まっているため、養護教諭が行っている教育実践をくまなく抽出できていない可能性があることは留意されたい。養護教諭の実践の中には、保健指導に健康診断結果を活用するなどの取り組みも見られるためである。このことに十分な注意を払う必要はあるが、今回の調査では、教育としての健康診断と特別活動とが直接繋がっている研究は少なかったことから、両者の関連付けが弱いことが示唆された。

桑戸¹⁶⁾が述べているように、健康診断を健康管理と健康教育の重要な機会とし、丁寧に取り組むためには、教育活動であることを養護教諭はもちろんのこと、学校全体として認識していく必要がある。そのためには、健康診断には「管理と教育」の両側面があり、教育としての健康診断を推進していくことの重要性を改めて認識することが必要であろう。

このように教育としての健康診断に焦点を当て、特別活動における健康診断の教育実践を行うことで、子供たちは様々な健康課題を自分事として捉え、主体的に自分たちの健康課題を話し合い、その話し合いを活かしながら、各自で自分なりの改善策等を意思決定していくことが期待される。そして、意思決定したことを日常

の生活で自主的・実践的に取り組むことを通して、子供たちの健康の保持増進が図られていくだろう。

このような、健康診断における教育の視点を定着させていくためには、まずは養護教諭が教育としての健康診断に特別活動としての要素をしっかりと含ませ、これを意識しながら学校全体へ発信していくことが必要である。また、学校全体の健康診断に対する意識の変容も必要であり、健康診断には「管理と教育」の双方の視点があり、特別活動における健康診断の教育実践を行っていく意識を全校の教職員に根付かせていく必要がある。これを実現するためにも、教育としての健康診断を学校の全体年間計画の中に組み込み、計画的・系統的な教育実践を確立していくことが重要であると考え。

VI. 今後の課題

本研究では、特別活動における健康診断の教育実践がどのように展開されているのかを、文献調査を通して検証してきた。先にも述べたように、本調査で行った文献調査では検索ワードが限られていたこともあり、これまで蓄積されてきた健康診断の教育実践の全てを明らかにしたとは言い難い。本研究をさらに発展させるためには、例えば「健康診断」で該当した論文の中に、健康診断を基にした特別活動における教育実践に言及したものがあるかどうか等を、詳細に検証していくことも必要であろう。さらに、養護教諭や一般教諭への質問紙調査や面接調査を実施し、養護教諭をはじめとした教師の意識や、学校全体の取り組みについても詳細に調査していくことが必要であると考え、今後の課題としたい。

【付記】

本研究に関して、利益相反事項はありません。

【文献】

- 1) 文部科学省 (2025) 学校における持続可能な保健管理の検討について：学校における持続可能な保健管理の在り方に関する調査検討会 (第1回) 資料2
https://www.mext.go.jp/content/20250516-mxt_kenshoku-000042576_3.pdf (2025.10.7)

- 2) 政府広報オンライン (2025) 生活習慣病とは？予防と早期発見のために定期的な受診を！
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201402/1.html#firstSection> (2025.11.8)
- 3) 宍戸洲美 (2018) 学校健診における養護教諭の役割：教育としての健康診断を目指して 特集2・これからの学校健診 教育と医学 (6), 84-91.
- 4) 日本学校保健会 (2015) 児童生徒等の健康診断マニュアル (平成27年度改訂), 9.
https://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_H270030/index_h5.html#1 (2025.12.8)
- 5) 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 特別活動編
https://www.mext.go.jp/content/20230208-mxt_kyoiku02-100002608_013.pdf
- 6) 帖佐尚人 (2012) 児童虐待予防と特別活動ーとりわけ学校健康診断に着目してー 早稲田大学教育学会紀要 (13), 49-55.
- 7) 山部真理・入谷仁士・久保昌子 (2023) 小学校における望ましい生活習慣の形成を目指した保健教育についてー単元「病気の予防」の保健の授業と特別活動および学校保健委員会を関連づけた養護教諭による教育実践の効果検証ー熊本大学教育実践研究 40, 21-29.
- 8) 奥井現理 (2018) 道徳教育・特別活動研究 (養護教諭養成) の展開ー総合的な学習の時間との連携を視野にー飯田女子短期大学教育研究論文集1 (2), 175-181.
- 9) 高根雅啓 (2016) 「特別活動」での「食に関する指導」の教育原理ー教育者としての栄養教諭と養護教諭 大阪府立大学人文学会 人文学論集 34, 27-36.
- 10) 高根雅啓 (2015) 「特別活動」「道徳」における「食に関する指導」の教育原理ー栄養教諭と養護教諭の陶冶論ー大阪府立大学人文学会 人文学論集 33, 111-121.
- 11) 白石龍生・山本千裕 (2015) 女子大学生から見た「性に関する指導」の在り方 大阪教育大学紀要 第IV部門 教育科学 63 (2), 73-80.
- 12) 安河内静子・樋口善之・石村美由紀・三根有紀子・浅野美智留・鳥越郁代・古田祐子・松浦賢長 (2005) 田川市郡の学校における性教育の実態調査：小・中・高校へのアンケート調査から 福岡県立大学看護学部紀要2 (2), 68-78.
- 13) 秋山麗子 (2013) 特別活動って何？ 特集：特別活動と生徒指導 月刊生徒指導 43 (7), 18-21.
- 14) 梶千枝子 (2002) 特別活動実践例 学級活動 (2) 第1学年 ころとからだのけんこうチェックー養護教諭との協力指導ー特別活動実践例 道徳と特別活動 = Moral education & special activities : 心をはぐくむ / 文溪堂ぶんけい教育研究所 編 19 (5), 36-39.
- 15) 福西孝允・山成幸子 (1991) 「特別活動」における保健指導の現状と問題点 学校保健研究 = Japanese journal of school health 33 (3), 112-117.
- 16) 宍戸洲美 2003 学校健康診断の教育的役割 日本教育保健研究会健康診断プロジェクト 編 教育としての健康診断 大修館書店

Health Checkups and Extracurricular Activities as “Education”

Miki I¹⁾ • Yousuke I²⁾

1) Department of Living Science, Teikyo Junior College

2) Tohto University

【abstract】

【Purpose】 Today, children's health challenges are diversifying and becoming more complex, including issues such as disordered lifestyles and mental health problems. To address these health challenges, there is a strong demand within current school settings to cultivate the qualities and abilities necessary for children to understand their own health challenges, particularly from school age, and to maintain and improve their health independently. Therefore, this study focuses on health checkups as an educational tool and aims to clarify, through a literature review, how teaching practices in extracurricular activities based on health checkups are being developed.

【Methods】 Using the academic search database service “CiNii Research,” searches were conducted using the keywords “*Yogo* teacher/health checkup/extracurricular activities,” “health checkup/extracurricular activities,” and “*Yogo* teacher/extracurricular activities.” The content of the extracted papers was analyzed to examine how health checkups as an educational tool have been implemented as teaching practices within extracurricular activities.

【Results】 Searching with “health checkups and extracurricular activities” yielded one relevant paper. Searching with “*Yogo* teacher and extracurricular activities” yielded nine relevant papers. These papers primarily discussed how to implement practices during extracurricular activity periods for various challenges, providing important insights for examining *Yogo* teachers' classroom practices. However, few papers mentioned the health examination teaching practices targeted by this study.

【Discussion/Conclusion】 The background preventing health examinations as education from being integrated into extracurricular activity teaching practices was thought to be influenced by the attitudes of *Yogo* teachers and the overall school's perception of health examinations. To establish health checkups as an educational practice, it is crucial that *Yogo* teachers—who play a central role in administering them—first recognize that health checkups are not merely administrative tasks. They must increasingly understand that these checkups have an educational dimension: helping children grasp the significance of health, encouraging them to confront their own health, and actively maintain and improve it. Building on this awareness, there is a need to consciously implement the educational perspective of health checkups as practical activities within extracurricular activities. Furthermore, it is important for schools to recognize that health checkups require both administration and educational components. Schools should integrate health checkups as an educational activity into their overall annual plans and establish planned and systematic educational practices.

【Key words】 Health Checkups, Extracurricular Activities, *Yogo* teacher